**令和4年度 第1回南アルプス IC 周辺高度活用計画検討委員会
議事録（要旨）**

日 時	令和4年8月12日（金） 10：00～12：10	場 所	市役所本庁3階 大会議室
<p>次第</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委嘱状交付 3 市長あいさつ 4 委員及び事務局の紹介 5 正副会長選任 6 会長あいさつ 7 議 事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 事業の背景、経過及び概要について (2) 本委員会について (3) 新産業拠点地区について (4) 「土地活用に向けての基本的な考え方」について (5) ディスカッション 8 閉会 <p><以下、議事録>（議長：佐藤会長）</p> <p>議題（1）事業の背景、経過及び概要について</p> <p>議題（2）本委員会について</p> <p>一括して、事務局より資料「第1回 南アルプス IC 周辺高度活用計画検討委員会資料」にて説明。</p> <p>【各委員の主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各産業が市の財政や人口減少、市内在住などに寄与しているのかなどを示すべき。 ・完熟農園跡地に直売所ができると思うが出品する果物が確実に減っていく。就農者数が減る中でどう維持するのか考えるべき。 ・このエリアにおいて遺跡が発掘された場合、子供達が弥生時代の暮らしなどを遺跡から生に触れ、生活が積層されていることを知ることも大切である。 ・工場の参入による市の産業育成や固定資産税・事業所税など税収に与えるインパクトがどれくらいあるのか産業により比較した上で、税収が多く見込まれる案がいいのか、文化教育の面がいいのかを整理すべき。客観的・定量的な情報を示しながら、定性的にビフォーアフターで示せる形にすべき。 <p>議題（3）新産業拠点地区について</p> <p>議題（4）「土地活用に向けての基本的な考え方」について</p>			

一括して、事務局より資料「第1回 南アルプス IC 周辺高度活用計画検討委員会資料」にて説明。

【各委員の主な意見】

- ・コストコが参入することで交通渋滞を心配している。地域の住民に迷惑が掛からない対策をして欲しい。上下水道も含めてインフラ整備のタイムスケジュールや参入企業の要望調査も併せて検討して欲しい。
- ・エリア内の空いている農地を市外の人が借り、シャインマスカットの木を植え、市外で販売している。今から対策をした方がいい。環状道路に右折レーン等がなく、各敷地に侵入できない。大型トラックが簡単に IC に入れるように車幅を広くするなどの改良も必要である。
- ・ファクトリーミュージアムの一覧をいただいたが、交流や移住人口の増加に繋がる効果があったのかなどの情報を示してほしい。
- ・10年20年のスパンの計画であるが、20年経つと社会情勢が大幅に変わり、技術革新が想定される中で、どこまで織り込んで検討すべきなのか。
- ・本エリアの開発により、市全体に波及させるプランが必要である。このエリアを SWOT 分析しているが、市全体に波及させるのであれば、市や県全体として検討すべきである。
- ・玄関口は玄関口としての機能が必要であるが、総合計画の将来像を土台としておくことを共有しないとプロジェクトごとに色々な機能性がある中で混乱を招く。

議題（5）ディスカッション

【各委員の主な意見】

- ・県や国全体から見た広い視点が欲しい。
- ・このエリアの利用により、市の魅力を高めて、どのような生活ができるのかを示し、共感を得られるような産業があるといい。
- ・農業振興地域であることも踏まえて進められるといい。
- ・地権者が高齢化し、荒廃地も非常に多い。
- ・エリアが広いので、優先順位をつけながら、地権者や地域の人たちに受け入れられる計画をつくり、速やかに進めていただきたい。
- ・農業はこの地域から外せない。農業との融合をどうするのがこのプロジェクト、あるいはこの地区を再生する核になる。
- ・稼げる産業基盤の創出だと思う。産業は農業、商業、工業である。人口減少は市にとっても問題であり、所得を上げることに繋がることを考えなければ。
- ・自主財源がなければ市を発展させることはできない。持続性を考えることも大事である。
- ・特化した物流センター・既存道路は拡張、各施設の出入口など交通インフラの整備の計画的な実施。大型店舗への来訪者を特産物などによりどう引き止めるのかが課題。水の備蓄や緊急避難できる設備を備えた災害にも対応できる店舗・工場が望ましい。若い世代が安心して住める街で、社会保障などの支援を充実させることで魅力的なまちになっていく。働く場所と住居の動線に商業施設、生活に必要な店舗がないため今回の議論とは別に検討して欲しい。

- ・都市部の子どもたちが触れられない自然が多くあり、生きていく上での豊さが既にある。これらを観光産業に取り入れたい。自然の大地に触れる玄関口という捉え方をしている。そのため、工業団地により得られるものもあるが、いまある素晴らしさに目が向かない状態になってしまうことがあれば悲しい。
- ・まちの玄関口として重要な地域である。長期の視点に立ち、次世代・未来の世代のことを考えながら、100、200年先のことまで考えなければとも感じている。そのためには今回の開発で終わりではなくて、再開発・再々開発も見越した形の計画を作っていきたい。
- ・市の歴史や文化、自然がある中で、何を残す・残さないのかも含めながら、長期スパンで考えたい。
- ・何を議論するのか共有した方がいい。具体的な話をする方と、理念や上位概念から話す方がいるため議論が噛み合わない。
- ・単に情報収集するのではなく、それをどう使うのかを考えながら収集し、その情報を戦略的に早い段階で示した方がいい。
- ・魅力ある産業拠点であるということ、そこに行きたい、住みたいということが、最大のテーマだと思う。やはりフルーツ、農業である。農業者人口が減少していることや後継者不足の話が具体的に進められていない中で、同時に詰めていかなければならない。
- ・一つの明確な分かりやすいテーマを作らないと、企業に何かを持ち込むこともできない。それを農業にするとして、その農業を使ってどういうことをするのか、核を決めないと進んでいかない。一方、その手段や来訪者は柔軟に考えていけると思う。
- ・近くにリニアや高速道路があり、非常にポテンシャルが高い。ただ、放置するとどうなるかわからなくなるため、受け皿を作っていくことや、規制をかけてコントロールをするという点では山梨県で最初のモデルとなる場所である。
- ・東京の企業からは、リニアや高速道路ができたからではなく、何がこの魅力なのか聞かれる。それは委員の話を見ると自然や農業だと思う。工業団地を作れば、企業が来てくれると思うが、この委員会ではそれよりも一歩先の議論をしたい。これをきっかけにどのようにして、農業や自然、住民の方の幸せに結びつけるのが大事である。そのため、この1年間の短期では明確な答えは出ない気がする。ゾーニングが全て決まるわけでもない。委員会では漠然としてでも良いので、多様な考え方や方向性を出し、何かを決めるというよりは、多様な考え方を今のうちから準備しておき、時代が変わっても、対応できるような感じだと思っている。

以上